

平成28年度市町村教育委員会アクションプラン・計画等概要

(別府教育事務所) NO. 1

市町村名	プラン・計画等	目標	行動計画	H28達成指標	
	学力向上 アクションプラン	<p>○児童・生徒の学力に関する目標(平成28年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力中・上位層の更なる学力の向上。 ・学力下位層の縮減。(中学校を中心に) <p>イ. 学校等が抱える組織的・構造的課題に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務主任が要となり研究主任と連携し、授業改善の5点セットの作成とPDCAサイクルを取り入れた組織的な授業改善を推進する。 ・学校司書と教員との連携による学校図書館を活用した授業を実施する。 	<p>① 授業改善に関する行動計画</p> <p>ア 学校全体で取り組む授業改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善計画、授業改善の5点セットを作成し、「新大分スタンダード」を意識した校内研究による授業改善と、管理職による授業観察と効果的なフィードバックを行う。 ・大分県教育センターの出前研修や、学力向上支援教員等を活用した校内研修を推進する。 <p>イ 習熟の程度に応じた指導の充実に向けて(補充指導の充実を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り担任以外の教員を動員して算数、数学、英語の習熟度別指導を行う。 ・中学校は、補充学習指導(朝学習、放課後学習)を週2時間以上実施する。 <p>ウ 司書教諭等を核とした学校図書館を活用した指導体制の確立に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校は、学校図書館の活用の視点から年間指導計画を見直し、学校図書館を活用した問題解決的な授業の充実を図る。 ・各学校は、学校図書館を活用した授業公開を積極的に行い、管理職による授業観察のフィードバックを行う。 <p>エ 市町村の教科部会を活用した授業改善に向けて(特に中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の教科部会(国語科、社会科、数学科、理科、英語科)は、学力向上支援教員等を活用した研修会をもつ。 <p>② 学びに向かう学校づくりに関する行動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共に学び合う集団づくりを重視した学級経営を行う。 ・生徒自身が課題を捉え、主体的に取り組む生徒会活動を推進する。 ・「学びに向かう学校づくり中核校」の公開授業への参加を、市内中学校だけでなく小学校にも呼びかけ情報提供をする。 <p>③ 保護者・地域と連携した学力向上の取組に関する行動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育課と学校教育課が連携して、放課後チャレンジ教室及び土曜教室において子どもの学びと家庭教育を支援する。 <p>④ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けて学校と家庭・地域との協働による取組を決定し、学校経営の最重点及び杵築市学力向上プランに位置づけ推進していく。 	<p>【全国学力・学習状況調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「知識」の平均正答率が全国を超えた割合(67%) ・「活用」の平均正答率が全国を超えた割合(54%) <p>【大分県学力定着状況調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を超えた児童生徒の割合(71%) ・県の中学校英語の偏差値52を超えた項目の割合(33%) <p>※「杵築市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と共通</p> <p>・県の調査において学力下位層(偏差値34以下)の割合(7%未満)</p>	
杵築市	体力向上 アクションプラン	<p>○一校一実践等を通して、運動好きな児童生徒・体力に自信がある児童生徒を育成する</p> <p>○児童生徒が意欲的に運動に取組む環境や授業づくりを行う</p>	<p>4月 平成27年度の課題やアクションプランの内容を踏まえた体力向上プランの策定</p> <p>5月 第1回体育担当者会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一校一実践」についての情報共有 ・体力調査に向けた共通理解(時期、方法など) <p>5~6月 体力アップ強化月間</p> <p>6月 大分県児童生徒の体力運動能力調査の実施</p> <p>7月 1学期における「一校一実践」の取組状況調査</p>	<p>8月 体力向上のための環境整備 第2回体育担当者会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の反省と2学期に向けて情報共有 ・体育専科教員による体力向上に向けた取組を還元 <p>9月 2学期における「一校一実践」の取組開始</p> <p>10月 体育専科教員、中学校体力向上推進校による第1回授業公開</p> <p>大分県児童生徒の体力運動能力調査結果等の分析</p> <p>12~1月 冬季体力アップ強化月間(弱点項目の強化)</p> <p>1月 体育専科教員、中学校体力向上推進校による第2回授業公開</p>	<p>○運動好きな児童生徒の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校男女とも80%以上 <p>○低体力層(DE層)の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小、中学校ともに県平均値より減少させる <p>○体力テストにおいて、「50m走」と「立ち幅跳び」の項目で全国平均値以上</p>
	不登校対策 アクションプラン	<p>○不登校児童生徒数及び出現率の目標値(平成28年度末値)</p> <p>(H28年度 市内)</p> <p>中学校出現率 1.20%</p> <p>小学校出現率 0.63%</p>	<p>○取組</p> <p><計画・組織></p> <p>『組織的な生徒指導』の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の「不登校対策プラン」の策定と学期毎の見直し ・未然防止と初期対応に向けた校内体制の確立 ・各学校の校内不登校対策委員会の活性化指導 <p><未然防止></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平素からの家庭との連携、信頼づくりの推進 ・生徒指導の三機能が意識された不登校対策の推進(絆づくり、居場所づくり、わかる授業、学校行事、相談体制) ・小中連携の効果的な支援策の展開 <p><初期対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あったかハート1・2・3」と欠席連絡シートの徹底 ・市内全学校の欠席把握と早期支援対応の取組強化 <p><学校復帰支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士(SSW)、教育支援センターとの連携強化 ・スクールカウンセラー等を活用した校内支援体制の充実 	<p>○地域不登校防止推進教員の活用計画</p> <p>(拠点校)</p> <p><計画・組織></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内「不登校対策プラン」の策定 ・校内不登校対策委員会の活性化 <p><未然防止></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「絆」、「居場所づくり」を意識した学級づくり、特別活動の実践指導 ・生徒指導の三機能を意識した「わかる授業」の展開 ・年間2回のQ-U検査の実施と検査結果の活用 ・校区内小学校との効果的な連携支援の推進 <p><初期対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校防止の初期対応の徹底 <p><学校復帰支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に応じた学校復帰の組織的な支援 	<p>(教育委員会)</p> <p>○地域不登校防止推進教員の活動日数(標準)</p> <p>○市教委等での活動=週2~3日(市教委・関係機関・学校訪問)</p> <p>○拠点校での活動=週2~3日[授業時間数は週原則6時間以内]</p> <p><計画・組織></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村及び各学校の「不登校対策プラン」策定の推進 ・市町村及び各学校の不登校対策組織の活性化の推進 <p><未然防止></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「絆」と「居場所」を意識した「魅力ある学校づくり」のサポート ・研修会での講師、助言者としての活用 ・中学校と小学校の連携推進 <p><初期対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村初期欠席対応システム構築の推進 ・「あったかハート1・2・3」の取組推進 <p><学校復帰支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援センターや関係機関、SC等との効果的な連携の推進

平成28年度市町村教育委員会アクションプラン・計画等概要

(別府教育事務所) NO. 2

市町村名	プラン・計画等	H28達成指標		
		目標	行動計画	
杵築市	組織力向上計画	<p>学校評価</p> <p>○学校の喫緊の課題を強調し、取組指標を教職員一人ひとりがブレイクダウンした学校評価を実施する。</p> <p>学校運営体制</p> <p>○主要主任による、重点目標の達成に向けた学年部会や分掌部会等を通しての人材育成を図る。</p> <p>○主要主任による人材育成を通して、重点目標の達成に向けて組織的に取り組む学校運営体制の確立を図る。</p>	<p>ア 学校評価の改善</p> <p>○校長連絡会等において、取組指標について、『誰が』では「全教職員が取り組むことが前提になっているか」、『何を』では「一人ひとりが具体的に取り組むことがわかる内容になっているか」、『どのくらいの程度で』では「取り組むことによって効果が表れると予想できる頻度になっているか」という観点で見直すように指導する。</p> <p>イ 学校運営体制の充実</p> <p>○校長連絡会等において、重点目標と主任及び壮年期・中堅期の教員の自己目標の連動を図るにあたり、重点目標に即した人材育成の観点から業務の中に位置付くように指導・助言する。</p> <p>ウ 学校・家庭・地域の協働の推進</p> <p>○「目標協働達成校モデル校」から、コミュニティ・スクールへの移行(豊洋小学校コミュニティ・スクール導入)</p> <p>○校長連絡会(4月・5月・10月・2月)、校長ヒアリング(5月)、学力向上会議(8月・2月)において、「学校評価の4点セット」及び「杵築市学力向上プラン」と連動した学校評価における学校・家庭・地域の協働の推進を図るため、取組指標を中心に指導・助言する。</p>	<p>・具体性のある取組指標が設定されている。→100%</p> <p>・主要主任の自己目標に人材育成の観点が位置付いている。→100%</p> <p>・学校評価に基づく改善策に関する家庭・地域との協議の実施率 小学校 54% 中学校 66%</p>
	主幹教諭の活用計画	活用内容		
		<p>○校長及び教頭を補佐し教職員のリーダーとして学校運営組織を機能させる主幹教諭の「見える化」を図る。</p> <p>・「校長及び教頭を補佐し」とは、①単なる事務処理を助力にとどめるのではなく、校長及び教頭の方針にそって、教職員に対して職務上の指導・助言をすることである。「教職員のリーダーとして」とは、②教職員の視点で情報の収集に努めながら、校長及び教頭に情報を提供したり、教職員の状況に応じた指導・助言を行うことである。</p> <p>「見える化」とは、教職員一人ひとりが主幹教諭を思い浮かべたとき、①②のような職務上の主幹教諭を捉えることができる状態のことである。</p> <p>○学校組織力及び指導力向上に向けた学年部会、分掌部会、教科部会等、各種組織の効果的・効率的な運営に関する調整。</p> <p>・「学校組織力」とは、主幹教諭の「見える化」によって、学校の重点目標の達成に向けて組織が一体となった姿(「芯の通った学校組織」の確立)である。</p> <p>・「指導力向上」とは、日々の授業、生徒指導上の対応、教育相談のスキルアップである。</p> <p>・いつでも、どんなときでも、組織が一体となって動けるように、指導力の向上につながる動きができるように、学校をまわすこと。</p>		